

## &lt; 運営推進会議における評価\_様式例 &gt; ※公表用

## 【事業所概要】

法人名	姫路医療生活協同組合	事業所名	看護小規模多機能てがら
所在地	(〒670 - 0974 ) 姫路市飯田 472-1		

## 【事業所の特徴、特に力を入れている点】

「住み慣れた地域でその人らしく過ごすことができるよう医療と介護の両面をサポートします。」を理念と掲げています。  
「通い」「泊り」「訪問看護」「訪問介護」のサービスを柔軟に組み合わせ、医療的なケアが必要な方でも主治医、多職種と連携し安心して在宅生活を過ごせるよう支援していきます。24 時間 365 日訪問看護体制が整っている。その人らしい自立した生活ができるよう一人一人の目標を設定し、達成に向け看護・介護が連携しながら取り組んでいる。また、ご家族の在宅介護も継続できるようご家族支援も行っている。

## 【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2023 年 2 月 28 日	従業者等自己評価 実施人数	( 10 ) 人 む	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	---------------	---------

## 【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2023 年 3 月 15 日	出席人数 (合計)	( 8 ) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 ( 2 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 ( ___ 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 ( 1 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 ( 5 人) <input type="checkbox"/> 利用者 ( ___ 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 ( ___ 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 ( ___ 人) <input type="checkbox"/> その他 ( ___ 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修はリモートでの参を積極的に進める。</li> <li>・理念の明確化</li> <li>・働きやすい職場づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リモートで参加</li> <li>・毎朝、理念の唱和を行う。</li> <li>・適宜面談を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念への理解、実践は出来ている。</li> <li>・新人チェックリストを用いて業務内容の統一を図る。</li> <li>・利用者の情報共有できるよう申し送り、カンファレンスで適宜発信しているが課題もあり。</li> </ul>
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅時の生活を訪問により生活状況の把握している。</li> <li>・利用者連携ファイルを用いて共有、看護計画書・介護計画書を両職種で共有している。</li> <li>・残存能力を活かせるよう自立支援への取り組みを重視したプラン作成出来ている。</li> </ul>
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・退院前はカンファレンス参加し情報提供行っている。</li> <li>・緊急時の対応は主治医によって予め連絡方法の取り決めを行っている。(MCS・TEL・FAX 等)</li> <li>・利用者に必要なサポート、民生委員、自治会長、近隣住民との連携支援を実施している。</li> </ul>
	3. 誰でも安心して暮らせる	運営推進会議議事録を職員と共有する。利用者、家族の運営推進会議への参加。	議事録を職員と共有するために
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・吸引回数多く他施設での受け入れ困難な利用者の受け入れ可能。</li> </ul>

	まちづくりへの参画(評価項目 32~41)	送迎、訪問時に地域生活や近隣の方々との関係性など意識して情報収集、共有に努める。地域活動等に関してはコロナ終息状況を見ながら参加していくようにしていく	秋ごろから少しずつ地域活動の参加を	・在宅看取りを希望されているケースは退院後から受け入れ看取りまでの支援を行っている。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42~44)		利用者について支援の目標を把握し目標達成への手だての課題がある場合は話し合いプランの見直しを行う	課題があるときは、その都度カンファレンスした。	自立した生活ができるよう一人一人の目標達成に向け看護・介護が連携しながら取り組んでいる。

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
Ⅰ. 事業運営の評価 (評価項目 1~10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念への理解、実践は出来ている。</li> <li>・利用者の情報共有できるよう申し送り、カンファレンスで適宜発信しているが職員間での共有方法について課題もあり。</li> <li>・避難訓練は年2回は実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新人チェックリストを用いて業務内容の統一を図る。</li> <li>・看護職、介護職の情報共有を申し送りで発信し続ける。 10日毎に発信状況をまとめて情報共有する。</li> <li>・実際に被災したときの一時避難場所などを含めて訓練が必要</li> </ul>
こ 1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11~27)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅時の生活を訪問により生活状況の把握している。</li> <li>・利用者連携ファイルを用いて共有、看護計画書・介護計画書を両職種で共有している。</li> <li>・残存能力を活かせるよう自立支援への取り組みを重視したプラン作成出来ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プランの更新時にはアセスメント内容を介護職と共働で作成し共有していく。</li> </ul>

	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退院前はカンファレンス参加し情報提供行っている。</li> <li>・緊急時の対応は主治医によって予め連絡方法の取り決めを行っている。(MCS・TEL・FAX等)</li> <li>・利用者に必要なサポート、民生委員、自治会長、近隣住民との連携支援を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吸引回数多く他施設での受け入れ困難な利用者の受け入れ可能。</li> <li>・在宅看取りを希望されているケースは退院後から受け入れ看取りまでの支援を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・喀痰吸引の資格を取得するにあたってコロナの影響で実習が進んでいないのが現状だが、資格取得者を増やす。</li> </ul>
III. 結果評価 (評価項目 42～44)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・その人らしい自立した生活ができるよう一人一人の目標を設定し、達成に向け看護・介護が連携しながら取り組んでいる。</li> <li>・医療を必要とする利用者においては 24 時間の看護体制が整っていること。またご家族支援も行うことでご家族の在宅介護も継続できている。</li> <li>・利用者本人に対しては、苦痛等を和らげるだけでなく、その方らしい最期を迎えられるようこまめな声掛けや関りを持ち、ご家族に対しては迷いや不安が軽減できるよう精神的支援や環境への配慮を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の目標や達成度をスタッフ全員が把握できるよう、一覧にして可視化する等の工夫を行う。</li> <li>・在宅への看護介入や、看護と介護の連携でのリハビリへの取り組みの充実が求められる。</li> <li>・利用者、家族への看取りへの満足度は得られているが、介護職員(特に夜勤職員)に対して不安を取り除く精神的支援と、一緒に看取りに関わる機会づくりが求められる。</li> </ul>

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ でき ている	あまりで きてい ない	全く でき てい ない		
<b>I 事業運営の評価【適切な事業運営】</b>							
<b>(1) 理念等の明確化</b>							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	3	3	4		<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念に基づいて利用者、家族に支援がよく出来ていると感じる。</li> <li>・<u>現在の理念に必要な理念を付け加えるなど見直しされては？</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」</li> <li>✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」</li> <li>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</li> </ul>
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している	3	6	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスの実態と経営の課題の間に立って努力しているのを感じる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します</li> <li>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</li> </ul>
<b>(2) 人材の育成</b>							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な	1	6	2			<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足	
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い			
	育成計画などを作成している	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・年度ごと自己目標を掲げ計画作成 ・新人チェックリストの作成を進めている ・育成計画の作成はしていない				・職制の交替期間をみると長期的育成計画が立てにくいのではないか。	✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」	
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	1	2	5	1	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・一部職員に限られている ・研修を受ける人とそうでない人と分かれている ・新たな専門技術向上の取り組みはしていない	・研修を受けるための間の代替え要員の確保が足りないように感じる。	✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保								
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	3	6	1		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・朝の申し送り、カンファレンス（1回/週）、プラン内容の見直し（1回/半年）で情報を共有	・忘れ物が多い実状を考えると人的余裕がなく共有時間が犠牲になっている面があるのではないか。	✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
<b>(3) 組織体制の構築</b>								

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていない	全く できていない		
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		7	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3 評的意見を反映させる為の努力は見えるがコロナ禍でのサービスに忙殺されている感じがする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・得られた要望・意見等は部会で共有し、サービスの提供に反映されている</li> <li>・要望・助言内容が分からないが参加者の指示で成されていると思うが実際分からない</li> </ul>					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	3	5	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・残業なしの定時対応で就業できる環境を望む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体調・家庭事情等に配慮あり働きやすい環境にある</li> <li>・利用者支援、業務内容の統一するために、1 回/週のケアカンファレンスを実施している。</li> </ul>					
<b>(4) 情報提供・共有のための基盤整備</b>							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	1	8	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・忘れ物や薬などのアイトレポットがあることを考えると情報共有に未達部分があるのではないかと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・申し送り、情報共有のルールづくりを徹底できるよう努めている</li> </ul>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の申し送りの中で情報の発信が行われている。職員間での共有方法について課題あり</li> </ul>					
<b>(5) 安全管理の徹底</b>							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	3	7			<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全面での対応は利用者の想定外の動きがあることを考えると難しい問題と思える。職員は頑張ってよくやっていると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます</li> </ul>
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	3	6		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設での昼間の火事対応は一応できていると思うが、それ以上の対応はこんごの課題と考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます</li> </ul>
<b>II サービス提供等の評価</b>							



番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</b>							
<b>(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成</b>							
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている	2	8			よく出来ていると思う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します</li> <li>✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅時も訪問により生活状況の把握</li> <li>・自宅での生活に合わせたアセスメントが行われている</li> </ul>					
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている	1	8	1		施設内の他事業所との情報共有を含め、よく出来ていると思う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者連携ファイルを用いて共有、看護計画書・介護計画書を両職種で共有</li> <li>・CM,看護職での共有が主となっている</li> <li>・カンファレンス等で共有</li> </ul>					
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その	4	4	2		介護を始めるときの家族との話し合いはよく出来てい	✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	目標の達成に向けた計画が作成されている	<b>[具体的な状況・取組内容]</b> <b>・本人、家族の目標達成に向けた計画が作成されている</b>				<p>と思う。一定期間経過してからの話合いはあるのか聞きたい</p>	<p>利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます</p>
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	3	6	1		<p>出来ていると思う。 「リハビリのてがら」と言われるような今後を期待する。</p>	<p>✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます</p>
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		8	2		<p>重症者の受け入れとリスクの回避とのせめぎ合い？の駆け引きが起こらないように願いたい。</p>	<p>✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践</b>							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	8	6	2		体調変化には対応していると思われる	✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> ・状態変化等適宜見直しあり					
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している		5	5		生活状況の把握はなかなか難しいと思われる	✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> ・家族送迎・居宅での生活状況の変化は訪問できないので、口答で話された変化の状況の把握あり					
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている	3	7			事業所内外を含む多職種との情報共有は出来ていると思う。	✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> ・事業所内外の情報の共有はあり ・サービス担当者会議の開催、フィードバック、ケアプランの交付・共有					
<b>(3) 介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供</b>							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	3	6			事業所内外を含む多職種との情報共有は出来ていると思う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です</li> </ul>
				<b>[具体的な状況・取組内容]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療ケアは看護師に指示をもらい、確認し実施</li> <li>・それぞれが出来る事、出来ない事を把握</li> <li>・定期的なカンファレンスを通して実現</li> </ul>			
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	4	6			情報共有の連携の場には立ったことはないが出来ていると思われる	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します</li> </ul>
				<b>[具体的な状況・取組内容]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・迅速に看護師と介護職との連携あり</li> <li>・ケースカンファレンス（1回/週）、申し送りの徹底で連携できている</li> <li>・普段の業務でもできるようにする</li> </ul>			
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	4	5	1		情報共有の連携の場には立ったことはないが出来ていると思われる	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します</li> <li>✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます</li> </ul>
				<b>[具体的な状況・取組内容]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝・夕の申し送り等を通じて情報提供や提案を行っている</li> <li>・細かく共有</li> </ul>			

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(4)利用者等との情報及び意識の共有</b>							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	4	4	2		利用者全員に一通りのサービス説明していると思うが理解には個人差が大きく出ていると考えられる	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・サービス内容についてケアマネ等が説明し了承を得ている ・本人が望む生活、取り戻したい生活、自立に向けての支援であることを分かっていたらよいよう努めている					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	3	7			利用者家族への説明は気長に繰り返すことが重要かと思う。専門化ではないので時間がかかると思う。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・利用者、家族等に分かりやすく説明され理解を得ている ・本人の思い、したいことを拾いあげ、実現可能な具体策を一緒に考える					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	3	7			同上	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・看護師から説明をされ理解を得ている					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	4	6			サービスを気持ちよく受けてもらうことは当生協の真髓であり職員は頑張っていると思う。	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>希望や意向を把握して生活が続けられるよう支援（食事面について好きな物、食べられる物を優先することがある）</li> <li>本人の意向確認が困難な場合、本人の生活歴等から本人の望む生活を想定し目標改定している</li> </ul>					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができる	3	4	3		これからは在宅がさらに増えることが予想され継続前提の方針も必要かと思われることから今まで以上に利用者、家族との情報共有に努めてもらいたい。	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>検討すべき状況を予め利用者等と相談、共有</li> <li>定期的に看護・介護・CM とのカンファレンスを実施し対象の利用者を抽出</li> </ul>					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	5	5			最期まで「ありがとう」のこえがよく聞かれることから頑張っていると思う	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>看護師の役割として成されている</li> <li>利用者、家族等に説明し記録を残す</li> <li>ターミナル加算についても説明し利用者・家族の意向についても記録に残す</li> </ul>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>2. 多機関・多職種との連携</b>							
<b>(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供</b>							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	2	6			よく頑張っていると思う	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます</li> </ul>
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている	3	6	1		利用開始時のカンファレンス等、各々のケースごとに出てきていると思われる	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します</li> <li>✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です</li> </ul>
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が	3	7			近隣の主治医との連携の報告もよくあることから出てきていると思われる	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	可能な体制が構築されている	<b>師が携わっている</b> <b>・急変時は看護師に連絡し即座に対応</b>					
<b>(2) 多職種との連携体制の構築</b>							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	2	5	1	2	近隣の民生委員とのコミュニケーションはかなり良いと思う	✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
<b>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画</b>							
<b>(1) 地域への積極的な情報発信及び提案</b>							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができ	1	5	3	1		✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発



番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	るような方法での情報発信 が、迅速に行われている	<b>[具体的な状況・取組内容]</b> ・誰も見ることができるかは知らない ・その都度記録を残し発信。誰でも閲覧 できるようファイルしてある				会議、構成者への議事録の配 布は知らない。見たことがな い。	信」の2つの視点から、充足度を 評価します
33	○ サービスの概要や地域にお いて果たす役割等につい て、正しい理解を広めるた め、地域住民向けの積極的 な啓発活動が行われている		5	4	1	積極的な啓発となると未だ 不十分と思う	✓ 「積極的な啓発活動」について、 評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や 「地域説明会の実施」などの取組 が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的 とした活動等は除きます
<b>(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮</b>							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介 護事業所の登録者以外を対	3	3			現状で該当者がいるかどう かわからないが今後に期待	✓ 「指定訪問看護事業所の指定を 併せて受けている事業所」のみが

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
	象とした訪問看護を積極的に実施している	<u>[具体的な状況・取組内容]</u>				する。	対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	7	3			出来ていると思う	✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・看護師・資格取得している介護士がおり体制が整っており、吸引回数多く他施設での受け入れ困難な利用者の受入れ可能					
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れるこ	<u>3</u>		<u>1</u>	<u>1</u>	<u>今後に期待</u>	✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	とができる体制が整っており、積極的に受け入れている	<b>[具体的な状況・取組内容]</b> <b>・体制は整っているが、受け入れまでには繋がっていない。</b>					✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	5				<b>看取りの話はよく聞く支援できていると思う。</b>	✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
<b>(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画</b>							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している	1	2	1	1	<b>[具体的な状況・取組内容]</b> <b>・全職員が理解できているとは言い難い</b>	繰り返して教育が必要と思われる ✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
							くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	5				かなり広範囲で対応している。また特定の集団住宅等は無いと理解している	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます</li> <li>✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」</li> </ul>
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている	1	2	1	1	地域の民生委員の参加で情報交換、提案はかなりできていないのではないか	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域にお</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ できて いる	あまりで きていな い	全く できてい ない		
							ける課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている		4	1		<u>家族支援の個々の報告は少なく代表的な報告となるため、内容はわかりにくい点がある</u>	✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
<b>Ⅲ 結果評価</b>				

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	<p>① ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p><b>[具体的な状況・取組内容]</b></p> <p>・定期的カンファレンスで達成度についても確認。目標の断続や見直しについても話し合いを行っている</p>	個々のサービス目標および達成度の評価は見ることがないためわかりにくい	✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	<p>① ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p><b>[具体的な状況・取組内容]</b></p> <p>・24時間体制で看護が介入できることで家族の安心感は大きい</p>	<u>個々の状況の報告はみる機会がないため分からない</u>	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</li> <li>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</li> <li>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</li> <li>4. 利用者の1/3には満たない</li> <li>5. 看取りの希望者はいない</li> </ol> <p><b>[具体的な状況・取組内容]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご家族が安心して看取りができるよう看護・介護の連携で細やかに対応している。ご家族支援も行い、精神面でのフォローや環境への配慮も行っている</li> </ul>	看取りの報告はよく聞くので支援は出来ていると思う	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</li> <li>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます</li> <li>✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</li> </ul>